



発行2009年1月31日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel / Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

.....

ハンザキ研をめぐるスター

### リンゴドクガ

最近流行の小物の癒しグッズみたいな物が、地面をモクモクと移動している。全身に黄色のホワーッとした暖かそうな毛が密生している。よく見ると赤色のシッポ? がピンと伸びている。毛虫は毛虫だと常に携帯しているプラスチックの容器に収容する。頭部と思われる部分には密生した黄色の毛がまるでモヒカン刈りのように並んでいて、そこに真っ黒の模様が見える。毛鉤職人の最高傑作品のような人工的な配色と形状である。こんなに目立っては鳥などにすぐ発見されて食われてしまうのではないかと心配になるくらいだ。



周囲の人も皆綺麗だ、初めて見たと驚いていたら、パソコン名探偵の K 君がすぐに探し出したのが、このリンゴドクガの幼虫である。リンゴの木なんか無いぞと言ったら、バラ科の植物を食うということで、サクラの葉を食べていたのではないかと思う。サクラとリンゴとバラが同じグループとは意外であったが、校庭のサクラの木にはもう葉っぱなんてない、昨年の11月半ばのことだった。容器に入れたままにしておいたら、2日目には糸を吐いて繭を作り始め蛹になってしまった。今は、北側の窓のそばで春がやってくるのを待っている様子である。羽化をお楽しみに(蛹は2ページの写真3参照)



写真1 サンインクワガタの花



写真2 サンインクワガタの果実



写真3 リングドクガの繭



写真4 オオサンショウウオはパクッ!



写真5 運動会の玉入れもハンザキの口へ



写真6 アンコ淵の照明も雪下ろしが必要だった

ハンザキ研を彩る花々

日本ハンザキ研究所 研究員  
株式会社ウエスコ大阪支社 安藤 義範

**(5) サンインクワガタ**

5~6月に薄い紫色の可愛い花を咲かすのはサンインクワガタです(写真1)。京都府北部から島根県にかけての山陰地方に分布するクワガタソウの仲間です。クワガタという名前の由来は、果実につくガクの形が鎧兜の鍬形に似ること、あるいは果実の形が似るなどとされています(写真2)。町中で身近に見られる雑草のオオイヌノフグリは、本種に近い仲間であり、花の形が類似していますが、面白いことに果実の形は異なります。余談になりますが、昆虫のクワガタもこの鍬形が語源となったようです。また、別名のニシノヤマクワガタも西日本の山に分布するという意味で、「サンイン」(山陰)と同じく分布地が由来。

黒川では長野の集落から三国峠に至る林道沿いに多く見られます。兵庫県内においては村岡町や香住町、日高町などの山陰側を主体として、南は山崎町、大河内町辺りまで確認記録があります(旧町名使用)県下では比較的多くの市町で確認されていますが、隣の鳥取県では保護上重要な種に、山口県では準絶滅危惧種になっており重要視されています。草丈が10cm程度と小さく、あまり目立ちませんが、かわいい花ですので、じっくり探してみてください。

.....

**何もかも凍りつくハンザキ研の厳冬**

この冬には仮設のトイレと自家工事の外にある流しの2か所で配管をパンクさせてしまった。11月下旬にまだ大丈夫と油断していたら、一気に-7まで下がったためだった。昨冬は-11が最低気温だったが、昭和50年からの生野における調査中の最低温度は-25である。この時には、川底が凍り水面には氷が流れて調査がやりにくかった。長靴の滑り止めのフェルトも凍っているので良く滑るし、水面がモヤモヤして見にくく、水に漬けた手網は上げたとたんにバリバリと凍ってしまうほどであった。翌日の新聞には港も凍ったと言う大見出しがあった。

この冬はまだ-9が最低気温だが、二重窓の内側の戸が凍り付いて開かないことや、玄関のドアも押したらバリッと行って開いた。門の南京錠もライターで暖めねば開かない。研究室のパソコンも寒すぎて働かないので、部屋を暖めねば稼動しない。雪が積もったら踏み固める前に雪掻きをしたほうが楽に除雪できることも学んだ。踏んだ場所は固く地面に凍り付いてしまうからだ。一回や2回なら楽しい雪掻きだが、これが毎日になると大変だ。さらに、国道は除雪車があつという間に雪を押し分けてくれるので、車の走行にはいいが、家の前に積み上げられた雪の山も早いとこ移動させないと氷の山になってしまう。白一色の雪景色や長い太いつらは眺めるのにはいいが、高齢者の多い村では厄介者だ。

## ハンザキ研への来訪者

当ニュース 19 (2007.8 刊) にまる 2 年間の来訪者数の表を載せています。今回は年毎の数に整理してみました。(2005 年は 9 月から 12 月の間)

年	団体数 / 人数	生物関係	公務	業者	地域住民	NPO 職員	報道	見学者	総計
2005	1 / 8	0	12	2	9	15	0	0	46
2006	9 / 235	21	77	100	239	106	5	85	868
2007	24 / 383	98	187	157	232	112	45	268	1,482
2008	29 / 540	86	140	165	137	312	38	651	2,069
計	63 / 1,166	205	416	424	617	545	88	1,004	4,465

2006 年 3 月には朝来市河川観察ステーション (約 1000 万円) が完成し、2007 年 11 月にはオオサンショウウオ保護センター (約 1200 万円) に多数のハンザキが収容されました。これらの施設の整備は団体数や見学者数の大幅な増加に結びついているのは確かでしょう。特別な宣伝をしているわけではありませんが、講演や活字など機会あるたびに知っていただこうという活動の反映かと思います。報道関係者への話題提供も大きな力になり、記事を見たりして遠方からの見学者もあって驚かされます。昨年 1 年間で私が集めることの出来たハンザキ関係の記事は 85 件にもなり、そのほとんどに生野町黒川と言う地名が出ています。これを見ていると、私の活動が多少なりとも地域の賑わいへのお役に立ってきたなという感慨を覚えます。

2008 年には NPO 法人化に向けてメンバーの集まりが再々あって職員の数が増えましたが、常勤の職員を置くだけの予算がありませんので、所長が作業員としても働いています。まあ、これは水族館長時代と変わらない状況なので苦にはなりません。アコ・バスという地域の交通手段の出現も、食料調達には便利になり長期滞在が可能になったのが大きく、私の滞在日数も、2007 年が 290 日で昨年は 310 日になりました。ハンザキの日常管理員も 2007 年 11 月からは毎日の作業にやってきますので、これらの数も加算すると 3 年半で 5,900 人にもなります。これは、当黒川地区の住民の 70 倍にも達する数で生野町の人口よりも少々上回ります。地域住民の来訪数が昨年は大きく減少していますが、これは NPO 法人の事務局入りにより、前年の地域の方の数が大幅に減った、その分が職員数の増加に繋がっているからです。

いずれにしましても、来訪者の増加は当研究所を知っていただき利用してもらえることになって結構なことなのですが、一人では見学者の対応にも限界がくることでしょう。この課題の解決が、今後の「あんこう・ミュージアム」の発展に大きく係わってくることであり、対策を考えていきたいと思っています。



## ハンザキ研日誌

2009年1月

- 元旦 2回目の越年、雪がしんと降り続き静かだ。
- 6日 朝来市のアコ・バスで街に食料の買出しにでる。
- 8日 オオサンショウウオ保護センターの健康診断実施 (柿木研究員他)
- 11日 姫路市農水産課・清水氏来所
- 14日 小型除雪機稼動する
- 16日 NPO 法人顧問の能見税理士に会計処置などについて相談
- 17日 NPO 事務局会議 (8名)  
NPO 事務局の新年会 (7名)  
NPO 会員の下村氏 (愛知県) など魚ヶ滝潜水撮影 (水深 6.2 ㍎)
- 18日 ハンザキ型抱き枕第2号完成、なかなか具合がよろしいです。
- 19日 雨が降り融雪増水の濁流となる。
- 22日 ハンザキ研ニュース 36 刊行、発送作業 (事務局 3名)
- 23日 黒川ダムからの放水終了 (12月8日から約 400 万トン) 何の目的か?
- 25日 放水が終了して2日目にアンコ淵の黒主出現する。  
277 回調査終了 (2008 年 12 月 23 日 ~)
- 26日 大阪府庁にて「安威川ダム建設環境委員会」
- 29日 国交省姫路河川国道事務所にて「東播海岸の環境会議」
- 30日 池上副事務局長と来所 (278 回調査 ~ 2 月 15 日 予定)
- 31日 ダム放水が無くなったが、再び降雨で融雪増水となる。  
.....

## ハンザキ所長のツブヤ記録

積雪による車の騒音吸収はすごい。シーンとして終日無音だ。雪の結晶などの構造をうまく騒音対策に使えないだろうか。特にギンギラリンのブンブン虫の群れには閉口する。ハンザキ研の対岸は絶壁で反射板の働きをするので、すごい騒音になる。おまけにカーブと傾斜角度がちょうどいいと見えて行ったり来たりするライダーは困り者だ。あの音を反射板で投げ返してやりたくなる。ご本人たちには自然環境のいいカーブの連続する格好のツーリングの穴場なのだろう。下流の生野ダムと上流の黒川ダムのサイトは気分爽快になるのだろうが、出来れば上流の無人の黒川ダムでやってほしい。

色々なライダーがハンザキ研にも訪れるが、その昔アフリカを走り回って楽しみつつ、アフリカ料理を学んできて、姫路市内で開業している料理人の若者はユニークだった。まさかアフリカだからと言ってゾウやライオンの料理は出ないだろうが興味しんしんだ。一度探して挑戦してみたいものだ。

(この印刷物はセブン-イレブンみどりの基金の助成をうけて作成しています)